

保育系短大生が抱く子どもの健康及び保健対応の不安に関する研究（2）
—領域「健康」をはじめとする子どもの健康に係る科目のカリキュラム改善に向けて—

A Study on the Anxiety of Children's Health and Health Care
in the Junior College Child Care Students (2):
Toward Improving the Curriculum of Subjects Related to Children's Health, Including
the "Health" Area

川島 隆・松澤 俊行

要 約

保育系短大生が子どもの健康・保健対応に関して抱く不安の有無やその内容を前報（2022）を踏まえて、明らかにし、園の子どもへの援助の充実や子ども自身が健康な生活を創っていくことに寄与することを目的とし、質問紙調査を行った。その結果、(1)学生の多くが、子どもの健康・保健対応に関する不安を持ち、保育実習を経験している2年次学生の方がより多くの不安を抱えていること、(2)健康・保健対応に関する不安の内容について、1年次学生と2年次学生では質的に異なること、(3)どの年度、どの学年においても、不安の内容として最も多く挙げられたのは、「けがなどの応急対応」であったが、その要因には違いが見られること、(4)保育実習で経験した園児の体調不良と健康・保健対応に関する不安の内容には、弱い正の相関が見られること、(5)実習や健康・保健的な対応に係る科目間のカリキュラム・マネジメントを進めるなど、指導改善やカリキュラム構成が必要であること、以上5点が明らかになった。今後は、領域「健康」をはじめとする「子どもの健康」に係る科目において、どのような指導改善やカリキュラム編成が、不安の軽減・解消につながるか、学生の学びの充実や保育者としての資質向上につながるか、検証する必要がある。

キーワード：保育系短大生 保育者 子どもの健康 保健対応 不安

1. はじめに

2023年5月、新型コロナウイルス感染症の、感染症法上の位置付けが変更されたことに伴い、「保育所における感染症対策ガイドライン」（2023）が部分改訂され、保育・教育現場においては、このガイドラインによって、対策に取り組むことが求められることとなった。また、コロナ禍は、インフルエンザや手足口病、ヘルパンギーナ等をはじめとする感染症の従来とは異なる流行パターンをもたらし、ここ数年とは異なる対応を保育・教育現場に迫ることとなった。

一方、こども家庭庁（2023）によれば、教育・保育施設等における事故報告並びに負傷報告は、増加傾向にあり、これまで以上に「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」（2016）にそった事故防止への適切な対応が保育・教育現場に求められることになった。

子どもの命を預かり、安心・安全を確保すべき保育者・教育者、そして、将来現場に立つであろう保育学生は、こうした状況をどのようにとらえているだろうか。

沼野（2011）は、保育現場において保育者

が、保健対応に非常に苦慮している現状を報告している。また、石井・小林（2023）は、初任保育者が感じる不安・困難感の一つに、「子どもの健康・安全を保障する責任の実感」を挙げている。さらに、杉野ら（2020）は、保育士養成課程に在籍する多くの学生が子どもの健康・保健に関する不安を抱いていることを報告している。このように、保育学生にとっても、保育現場の保育者にとっても、子どもの健康や保健対応についての不安は、大きな問題と言える。

前報（川島・松澤 2022）では、保育系短大生が子どもの健康・保健対応に関して抱いている不安の有無やその内容を明らかにし、園における子どもの援助の充実や子ども自身が健康な生活を創っていくことに寄与することを目的とし、質問紙調査を行った。その結果、(1)保育系短大生のほとんどが不安を抱いており、保育実習を経験している2年次学生の方が、1年次保育学生よりも多くの不安を抱えていること、(2)不安の内容について、「けがなどの応急対応」は、両学年共に多くの回答が見られ、1年次保育学生では、「子どもへの接し方」についての不安が、2年次保育学生では、「保護者への支援」が特徴的であること、(3)2年次保育学生が抱えている「けがなどの応急対応」の不安は、「応急処置の具体的理解」をはじめ具体的なものであり、1年次保育学生の不安とは質的にも異なること、(4)保育実習で経験した園児の体調不良と子どもの健康・保健対応に関する不安には、弱い正の相関が見られ、保育実習において体調不良に関わる経験を多くすることは、健康・保健対応に関する不安を大きくすることにつながるということが明らかになった。

そこで、本研究では、先に述べた前報の成果を踏まえ、保育者を志す短大生のうち、保育実習を前にした1年次保育学生、入職前の2年次保育学生それぞれが、子どもの健康・保健対応に関して抱いている不安の有無やその内

容を明らかにした上で、年度比較・分析することで、領域「健康」をはじめ「子どもの健康」に係る科目のカリキュラム編成並びに具体的な指導改善につなげる、より詳細な資料を得ることを目的とするものである。また、そのことを通して、園における子どもの援助の充実や子ども自身が健康な生活を創っていくことに寄与するものとしていきたいと考える。

2. 方法

(1) 対象者

2022年度1年次在籍の保育者養成課程の学生（以下、保育学生）116名、同年度2年次在籍の保育学生120名にGoogle classroom及び口頭にて調査依頼及び趣旨説明を行った。回答者は、1年次保育学生83名回答（回収率71.6%）、2年次保育学生は64名回答（回収率53.3%）であった。

(2) 手続き

手続きについては、川島・松澤（2022）と同様の方法によって、実施することで、結果の比較分析を行うこととした。具体は、以下に記述するとおりである。

1年次保育学生に対しては、教育実習Ⅰ及び保育実習Ⅰ（保育所）を実施する前（2022年10月）に、以下の内容について、Google formを利用して、電子媒体によって回答・提出することを求めた。

- ① 実習に際して健康・保健に関する対応への不安の有無
- ② 不安がある場合には、どのような不安があるのかについて、15項目の選択式（複数回答可）（表1参照）杉野（2020）を参照・改変
- ③ ②についての具体的内容については自由記述

また、2年次保育学生に対しては、概ね教育実習Ⅱ及び保育実習Ⅱが終了した後（2022年10月）、以下の内容で、1年次保育学生と

表 1 健康・保健に関する対応への不安

1. けがなどの応急対応
2. 疾病への対応
3. 感染症予防
4. 事故防止
5. 子どもの心身のケア
6. 衛生習慣
7. 睡眠
8. 排泄の世話
9. 発達に応じた対応
10. 保健計画
11. 身体計測
12. 子どもの健康に関する保護者への支援
13. 子どもへの接し方
14. 虐待に関すること
15. その他

表 2 保育実習で経験した内容

① 室内遊び	② 園庭遊び	③ 手遊び
④ 読み聞かせ	⑤ 紙芝居	⑥ 園外散歩
⑦ おんぶ	⑧ 抱っこ	⑨ 衣服の着脱
⑩ おむつ交換	⑪ 食事補助	⑫ 授乳
⑬ 調乳	⑭ 歯みがき	⑮ 排泄補助
⑯ 沐浴	⑰ 検温	⑱ 与薬
⑲ 身体計測	⑳ 体清拭	㉑ 顔清拭
㉒ 連絡帳	㉓ 保護者との会話	㉔ 寝かしつけ
㉕ その他		

同様の方法で調査を実施した。

- ① 保育実習 I・II において担当した園児の年齢
- ② 保育実習 I・II で経験した内容
25 項目より選択式 (複数回答可) (表 2 参照) 小屋 (2010) を参照・改変
- ③ 保育実習 I・II で経験した体調不良の内容 18 項目より選択式 (複数回答可) (表 3 参照) 小川ら (2018) を参照・改変
- ④ (園に就職する学生のみ対象)
就職に際しての健康・保健に関する対応への不安の有無
- ⑤ ④ の不安の内容 15 項目の選択式 (複数回答可) (表 1 参照)
- ⑥ ⑤ の具体的内容についての自由記述

以上の分析について、選択式は、単純集計、自由記述については、杉野ら (2020) の分析にならない、類似した内容のカテゴリー化を行った。また、2 年次保育学生については、②と

表 3 保育実習で経験した体調不良の内容

① けが (擦り傷等)	⑪ 熱中症
② 発熱	⑫ けいれん
③ 咳	⑬ 発疹
④ 鼻血	⑭ 骨折・脱臼・捻挫
⑤ 鼻水	⑮ やけど
⑥ 嘔吐	⑯ 打撲
⑦ 下痢	⑰ 誤飲
⑧ 腹痛	⑱ その他
⑨ 頭痛	
⑩ 悪心	

⑤、③と⑤の項目についての相関分析を行った。

(3) 倫理的配慮

論文公表における倫理的配慮に関しては、浜松学院大学短期大学部の倫理審査を受け、承認された。

3. 結果

(1) 学生が抱く健康・保健対応に関する不安の有無と内容



図 1 健康・保健対応の不安の有無 (2022)

保育学生の「健康・保健対応に関する不安の有無」についての調査結果は、図 1 に示すとおりであった。1 年次学生は 72 名 (87%) が不安を感じている、11 名 (13%) の学生が不安は感じていないと回答していた。2 年次学生は、57 名 (89%) が不安を感じている、7 名 (11%) の学生が不安は感じていないと回答していた。

また、不安の内容については、図 2 に示すとおりであった。15 項目のうち回答が多かったのは、1 年次学生では、「(1)けがなどの応

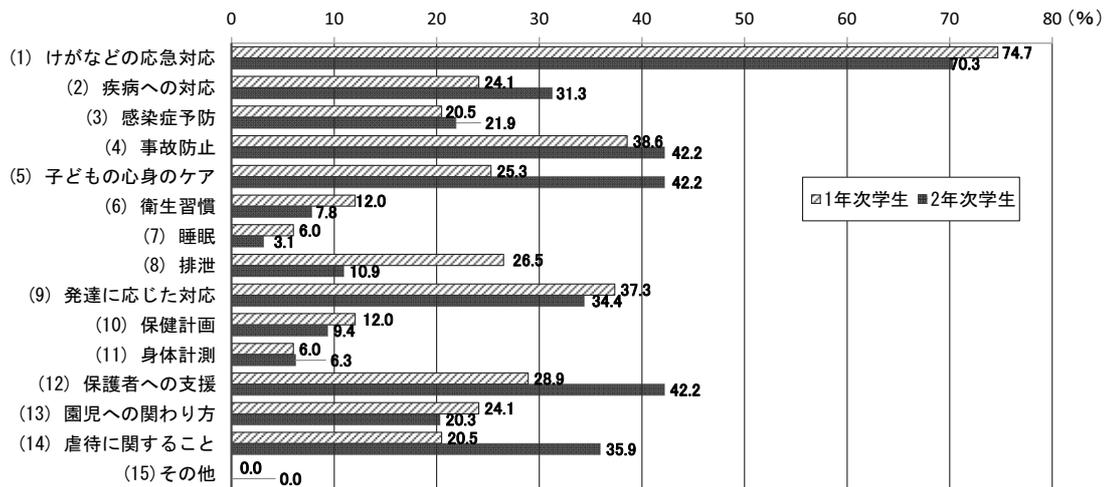


図2 子どもの健康・保健に関する不安の内容 学年比較 (2022)

急対応」で 62 名 (74.7%)、次いで「(4)事故防止」32 名 (38.6%)、「(9)発達に応じた対応」31 名 (37.3%)、「(12)保護者への支援」24 名 (28.9%) の順であった。また、2 年次学生は、「(1)けがなどの応急対応」で、45 名 (70.3%) が最も多く、次いで、「(4)事故防止」、「(5)子どもの心身のケア」、「(12)保護者への支援」の 3 項目で、いずれも 27 名 (42.2%) であった。

次に、これらの内容に関する自由記述については、表 4 に示すとおり、回答が多い上位の項目について、カテゴリとともにまとめた。1 年次学生は、「(1)けがなどの応急対応」について、52 名が記述し、6 つのカテゴリにまとめられた。「正しい対応の理解」、「冷静な対応」、「迅速な対応」、「未経験」、「具体的な対応」、「その他」の 6 つであった。また、「(9)発達に応じた対応」については、「発達に応じた対応の理解」、「発達に応じた対応の判断と実践」、「その他」の 3 つのカテゴリにまとめられた。さらに、「(12)保護者への指導」については、「保護者への支援の仕方の理解」、「保護者とのコミュニケーション」、「健康に関する専門的な知識」、「その他」の 4 つのカテゴリにまとめられた。

2 年次学生は、「(1)けがなどの応急対応」について、24 名が記述し、6 つのカテゴリにまとめられた。「迅速な対応」、「適切な

対応」、「冷静な対応」、「正しい対応の理解」、「具体的な対応」、「その他」の 6 つであった。また、「(9)発達に応じた対応」については、「発達に応じた対応の判断と実践」、「発達に応じた対応の理解」、「その他」の 3 つのカテゴリにまとめられた。次いで、「(14)虐待に関すること」については、「虐待への対応の判断・実践」、「冷静な対応」、「その他」の 3 つのカテゴリにまとめられた。さらに、「(12)保護者への指導」については、「保護者とのコミュニケーション」、「未経験」、「その他」の 3 つのカテゴリにまとめられた。

不安を感じる内容は、1 年次学生と 2 年次学生で共通するが、その要因については、違いが見られた。

(2) 2 年次保育学生の実習における経験内容

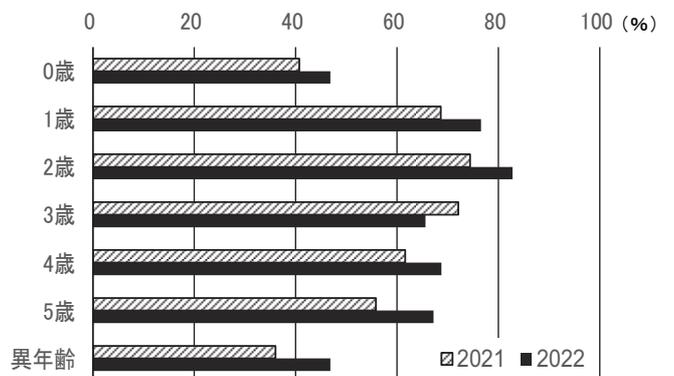


図3 保育実習 I・II (保育所) で担当した園児の年齢 (年次比較)

2 年次保育学生は、保育実習を経験してきている。その経験が、入職に際しての不安に 影響していることが考えられるため、保育実習において、担当した園児の年齢 (図 3)、

表 4 項目別不安の内容 (自由記述) 【1 年次学生】

(1) けがなどの応急対応		(9) 発達に応じた対応		(12) 保護者への指導	
記述数	52	記述数	21	記述数	16
カテゴリー	記述内容	カテゴリー	記述内容	カテゴリー	記述内容
正しい対応の理解 (25)	事故が起きてしまった場合、どうしたらよいか応急処置の仕方が分からない (18)	発達に応じた対応の理解 (7)	発達に応じた対応をどうしたらいいかわからない (4)	保護者への支援の仕方の理解 (7)	保護者に対してどのように支援すればいいかわからない (4)
	子どもが怪我した時に一番にすればよいこと(手当ての手順)が分からない (3)		発達に応じてどのように関わっていけばいいかわからない		保護者への支援は、具体的にどのようなことをするのか分からないので学びたい。
	怪我の状態によって対応が変わると思うのでそれを知りたい (3)		発達の遅い子に対してどのように接してあげればいいのか分からない		保護者とどのように関わるべきなのかが分からないので、子供のその日の様子を的確に伝えられるかが心配。
	その場の対応が分からない。すぐに動けるように実際の場面を多く体験してみたい		その子自身の発達段階がそれぞれ違うから、対応が分からない		保護者との接し方や、どういう言葉掛けをすればいいかわからない
具体的な対応 (8)	骨折や脱臼した時、遊具から落ちてしまった時などの大きな怪我の際、自分でのような対応をすればいいかわからない (2)	発達に応じた対応の判断・実践 (9)	発達に応じた対応 発達に応じて対応がそれぞれ違うのでどのように対応するのが最善かその対応が本当に合っているのか不安	保護者とのコミュニケーション (5)	保護者と関わるにはコミュニケーションが大切だったり保護者との対応はとても難しいので不安
	怪我の種類や程度によっての応急措置の仕方、包帯の巻き方など (3)		一人一人の発達に応じた対応ができるのか (5)		健康以外でも親との関わり方が難しい
	転んでしまった時や、遊具から落ちてしまった時など (2)		発達に応じた対応ができるかわからないし、どのような根拠があってどの対応をしたと理由を明確に持って行動ができるか不安だから		保護者に上手くアドバイスを伝えることが難しいから
	擦り傷など軽くは無い重症の場合の対応		その遊びがその年齢の子供に合っているのか自分で判断するのが難しい (2)		大人相手となるとその分説得力や知識が必要となり自信が無い
迅速な対応 (6)	怪我や病気について学んではいますが、実際にその場にたつた時自分がすぐに対応できる気がしないから (2)	その他 (5)	同じ年齢でも発達に差がある場合、対応を変えることで子供からみると差別されていると思われるかわからない不安	健康に関する専門的な知識 (2)	保護者には保護者の考えがあるのでそこも理解しないといけないので不安
	すぐに適切な対応ができるか不安 (2)		子供が喜んで率先してくれる運動遊びの考え方		医者じゃないから健康について保護者に支援できるのか、不安
	ケガをした時の叱咤の対応の判断ができるかわからない		どこまで子どもたちだけでやらせてもいいのか	健康に関して専門的知識をもっているわけではないため、保護者に、適切な役立つアドバイスや支援ができるかわからない	
	けがをしたときに水で濡らしたり消毒液をつけたり、絆創膏を貼るとか、また違うものを貼るのかとか、判断がすぐできないそう不安		年齢に応じた遊び方	出来る自信が全くないので不安	
冷静な対応 (4)	ケガをしてしまった時に、どう対応していいかわからなくてパニックになってしまいたい (2)		どのように教えるか	(2)	子育てに不安を感じている保護者への対応の仕方
	保育園体験をしに行った時、子どもが転んでしまいたい泣いた。その時は初めての出来事でアタフタした。就職するまでに、こういう時の対応も学びたい				
未経験 (4)	まだ自分の経験が圧倒的に少なく、柔軟に対応できる自信がないから				
	何もかも不安です。まだ実習も行ったことないので何から何までが分からない				
その他 (5)	怪我をした子供の対処をしたことがないので対処の仕方を知っていても、実際に怪我をした時にできるかわからないので不安 (2)				
	子どもはいつ怪我をするかわからないし、勝手に怪我しても監督不足で保育者が悪い立場になるから				
	子どもが自分で遊んでてケガをした時の応急処置よりも、自分がケガをさせてしまった時が不安				
	ふと目を離れたその一瞬で大怪我に繋がってしまうかもしれないという不安				

実習で経験した内容（図 4）及びその内容量（図 5）、さらに実習で対応した体調不良の

内容（図 6）及びその内容量（図 7）についても調査を行った。

表 4-2 項目別不安の内容（自由記述）【2 年次学生】

(1) けがなどの応急対応		(9) 発達に応じた対応		(14) 虐待に関すること		(12) 保護者への指導	
記述数	24	記述数	14	記述数	14	記述数	12
カテゴリー	記述内容	カテゴリー	記述内容	カテゴリー	記述内容	カテゴリー	記述内容
迅速な対応 (5)	その怪我などの状況に応じた対応が直ぐにできるか不安を感じる	発達に応じた対応の判断・実践 (5)	発達を理解した上での指導が出来るかどうか分からない(2)	虐待への対応の判断・実践 (8)	虐待は様々な種類があるので、子どもの様子や変化にきちんと着目して正しい判断を取れるかが不安 (2)	保護者とのコミュニケーション (8)	保護者の方と話す時にどういった言い回しをしていいかわからない
	急な場面でとっさに判断し、行動が出来るか不安		子どもによって発達の仕方はそれぞれであり個人差があるので、上手く声掛けをして行けるかどうか不安		虐待の恐れがある時、それが悪化しないよううまく保護者に話したり、園に報告したりすること		子どもの健康状態や園での様子などを伝えるときに子どもの悪い面を伝えるのではなく、保護者の方にとってプラスになることや前向きな言葉で伝えることが難しい
	子どもの状態を見てどの対応をしたら良いか素早く判断し、柔軟に対応しなければならぬから		発達に関して理解はしてるけど、ちゃんとできるか不安		全て、自分が気づけるかわからないから		保護者にしっかりと説明や支援ができるか
	怪我などの応急対応すくに対応できるか不安		年齢だけでなく月齢にも着目する事が大切だと思うから見分けが心配		ほかの先生に相談したとしても、自分のクラスにいたらしっかりと対応できるか		保護者に安心感を与え信頼関係を築いていきたいからこそ、情報の伝え方が難しいと感じるから
適切な対応 (5)	子どもが怪我した時の状況を子どもに聞いたり、情報収集をしたりしてそこから適切な判断や処置ができるか心配になる	発達に応じた対応の理解 (3)	まだ全ての年齢の子どもへの対応を理解していないので使い分けられるかが不安	冷静な対応 (2)	虐待をされている子どもを判断する能力。保育者が見つかることでその子が助かるから	未経験 (2)	保護者との接し方が難しく(2)
	どの怪我にはどんな対応が必要か頭に入れておかないと効率よくできない気がする、正しい処置ができるか不安		知識が十分じゃないため		虐待についての対応は難しく(2)		保護者への伝え方を上手になりたい
	その場で適切な対応ができるか不安 (2)		発達によって気をつけなければいけないことなど		虐待にあっている子に実際会った時どういいかわからなくなりそう		保護者への支援や虐待も経験がないので不安です
	臨機応変に状況を見て子どもの対応をすること。		子どもの発達は個々に異なるため、子どもに合った関わりや声かけが必要で、かつクラスとしてまとめていくにはどうすればいいかと悩む		虐待をされている子どもに出会った時、保護者の方どう関わっていけば良いか、子供をどうケアしていけば良いか、学校で習ってはいるけれどもいざ本当にそういった場面に出くわしたら焦ってしまいうで、少し不安		保護者との関わりは実習で行っていないため不安
冷静な対応 (3)	子どもが大きな怪我をした時慌てず正しい処置ができるか。	その他 (6)	発達に応じた関わり方というよりは、一人一人の子供にあった関わりをしていきたい。	その他 (4)	気づいてすぐの対応が逆上されないか	その他 (2)	お家で見ていて欲しい子どもの健康状態
	見てないところで怪我した子に対して冷静に対応できるか		遊びの選択が難しい		意外と虐待は身近にあるから		初めましての園児への接し方は難しいと感じたから
	応急処置で焦ってしまいう		発達障害のある子との関わり		実際に出会ったら不安なため(2)		
正しい対応の理解 (2)	全て、私に知識があるように感じないから		生活習慣を身につけさせるために、年齢に合わせた配慮				
	どの程度の傷を手当てしたらいいのか曖昧。		未満足への保育				
具体的な対応 (5)	けいれんとか起きた時の対応(2)						
	鼻血が止まらないときがあった						
	足を擦りむいてしまった時						
その他 (3)	具体的な怪我などに対する対応						
	現場で怪我や病気に臨機応変に対応したことないから						
	怪我などをしたときの対応法、怪我や事故が起こらないようにするための対策ごまめに視診をすること						

保育実習では、2歳児を中心に比較的幅広い年齢の子どもを担当している学生が多く、各園の実習への配慮が見られた。また、2021年度に比べると、2022年度は、その傾向が強まっていると言える。

また、学生によって、経験する内容には大きな差が見られた。保育実習で経験している内容としては、「室内遊び」、「園庭遊び」については、64名全員が経験している。次いで、「読み聞かせ」(57名)、「寝かしつけ」(56名)等が挙げられた

保育実習の経験内容の個別量を集計すると、図5に示すとおりであった。24の内容のうち、2022年度の平均は、10.8と2021年度と同値であるが、16の内容を経験している学生もいれば、2つの内容のみであった学生も見られ、同じ期間でありながら、経験内容には大きな差がある。

次いで、学生が保育実習で経験した園児の体調不良については、図6に示すとおりである。「けが(擦り傷等)」88%(56名)が最も多く、次いで「発熱」81%(56名)「鼻水」77%(49名)、「咳」66%(42名)が、学

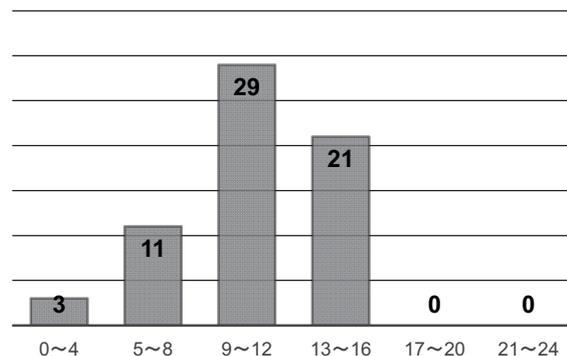


図5 保育実習 I・IIで経験した内容量 (2022)

生が多く経験している内容であった。総じて、2021年度に比べて2022年度は、学生が経験した園児の体調不良の内容が、幅広いものになっている。特に、発熱、咳、腹痛等は、対応している学生が顕著に増えている。これは、保育現場における新型コロナウイルス感染症への対応の変化に伴い、学生による体調不良への対応範囲が広がってきたのではないかとと思われる。

一人当たりの経験した体調不良の内容量をみたものが、図7である。平均でみると、学生は、実習においておよそ5種類程度の園児の体調不良への対応を経験している。中に

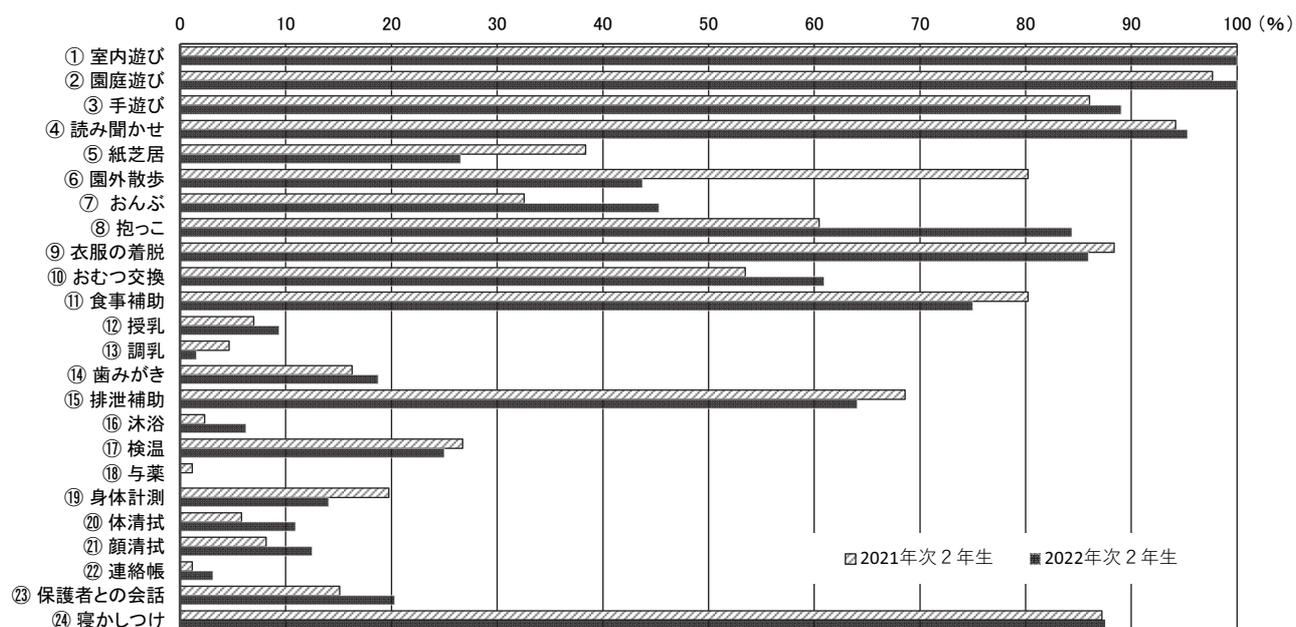


図4 保育実習 I・II (保育所) で経験した内容の年次比較

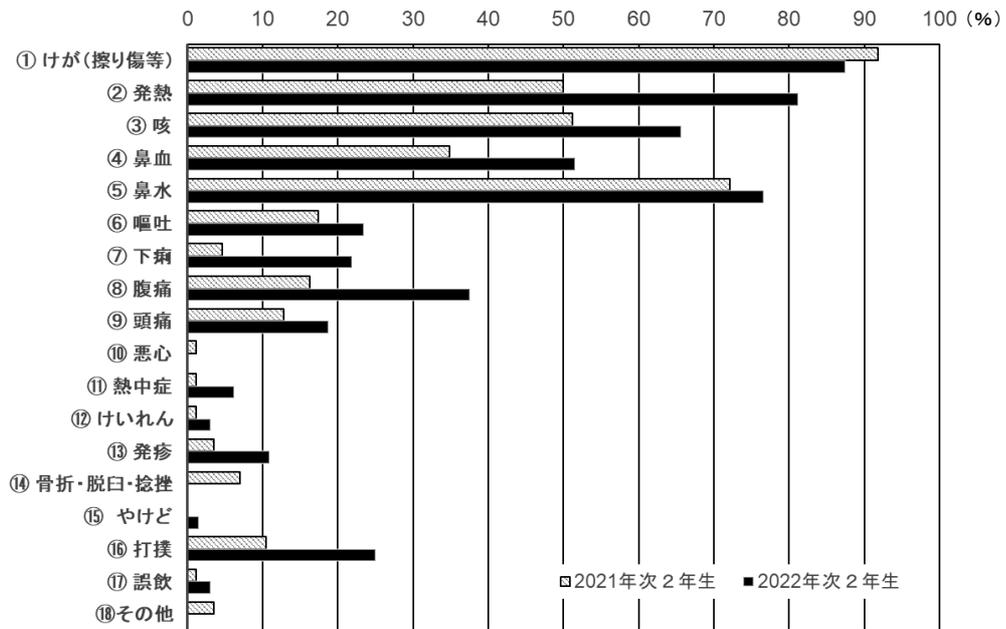


図6 保育実習 I・II (保育所) で経験した園児の体調不良の年次比較

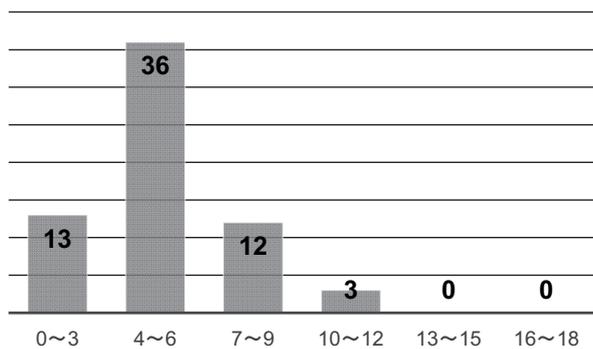


図7 保育実習 I・II で経験した園児の体調不良の内容量 (2022)

に明らかな差が見られた。また、この 2022 年度の結果は、前年度に比較すると、若干の増加が認められた。

さらに、子どもの健康・保健に関する不安の内容 (図 2) について年度別・学年別比較したのが、表 5 である。2021 年度、2022 年度のいずれも、一人当たりの項目数は、2 年次学生が高い値を示しており、園児の健康・保健対応について多くの不安を抱えていることが分かる。

は、先ほど挙げた 4 つ以外に「下痢」、「腹痛」、「頭痛」、「熱中症」、「発疹」、「打撲」等、10 を超える内容 (症状) の対応を経験している学生も見られる。一方で、体調不良への対応が 1 つのみであったという学生も 4 名ほど見られ、経験した体調不良の内容量

(3) 2 年次保育学生の実習における経験内容と健康・保健対応に関する不安の関連

最後に、前報同様に、「保育実習 I・II で経験した内容」及び「保育実習 I・II で経験した園児の体調不良」と「子どもの健康・保健対応に関する不安の内容」との関係につい

表 5 子どもの健康・保健に関する不安の内容 年度別・学年別比較

項目	年度・学年	2021年度		2022年度	
		1 年生	2 年生	1 年生	2 年生
不安内容項目総数		327	515	296	242
平均 (一人当たりの項目数)		3.5	6.0	3.6	3.8
標準偏差 (SD)		2.51	4.04	2.65	2.62
調査人数		94	86	83	64

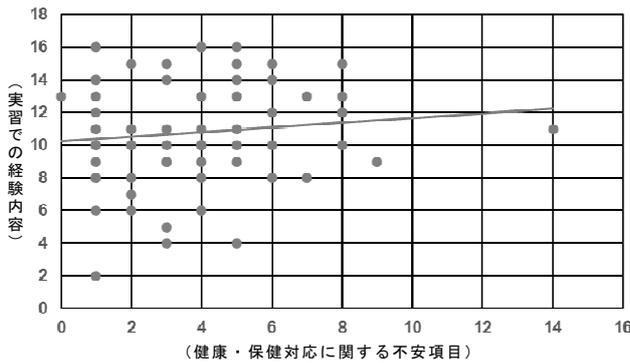


図8 実習での経験内容と不安項目の相関

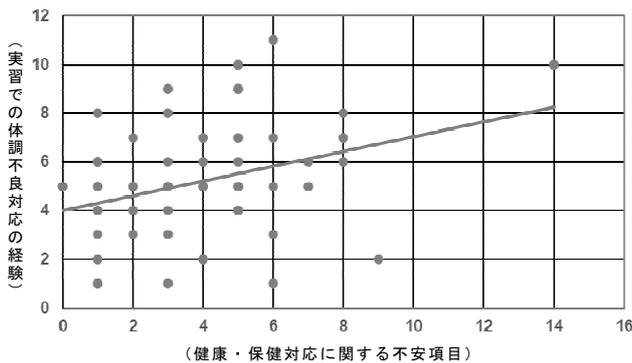


図9 実習での体調不良対応と不安項目の相関

て検討を試みた。その結果は、図8、図9に示すとおりである。

「保育実習Ⅰ・Ⅱで経験した内容」と「子どもの健康・保健対応に関する不安の内容」との関係は、相関係数 $r = 0.11$ であり、相関は認められなかった。一方、保育実習Ⅰ・Ⅱで「経験した園児の体調不良」と「子どもの健康・保健対応に関する不安の内容」の関係は、相関係数 $r = 0.36$ であり、弱い正の相関が認められた。なお、2021年度調査においても、同様の分析結果が示された。つまり、両年度ともに「保育実習Ⅰ・Ⅱで経験した内容」と「子どもの健康・保健対応に関する不安の内容」には、相関は認められず、「経験した園児の体調不良」と「子どもの健康・保健対応に関する不安の内容」には、弱い正の相関が認められたのである。

4. 考 察

(1) 健康・保健対応に関する不安の有無

本研究は、保育者を志す短大生のうち、保

育実習を前にした1年次保育学生、入職前の2年次保育学生それぞれが、子どもの健康・保健対応に関して抱いている不安の有無やその内容を明らかにすることを目的としてきた。

田辺・後藤(2016)は、実習経験がある学生と実習経験がない学生間で、実習に対する不安要因に差異を見出す調査を実施している。結果として、大きな差は見られないと結んでいるが、詳細部分には、差を認めている。つまり、項目「子どもの健康状態の把握」「緊急時の対応(応急処置)」「安全な環境への配慮」等、本調査と関わりのある内容については、両者の回答に違いが見られるとの報告をしているのである。また、片岡(2021)は、保育職を目指す学生を対象とした調査から、就労に対する不安、とりわけ保健対応を含む「職務能力への不安」が学年の上昇とともに高くなると報告している。

本調査においても、実習を経験していない1年次学生と実習を経験している2年次学生では、不安の有無について、差を認めることができる。前項で述べたように、2021年度、2022年度のいずれの年度も2年次学生が1年次学生よりも多くの学生が健康・保健対応に関する不安を抱いているのである。

つまり、2年次保育学生は、保育実習において、健康・保健対応を目の当たりにしてきたり、実際に経験したりすることでその難しさを実感してきており、そのことが、不安を大きくさせているのではないかと推察される。

(2) 健康・保健対応に関する不安の内容

健康・保健対応に関する不安の内容について、1年次及び2年次保育学生の結果を比較すると、大きな違いが見られる。全体として2年次保育学生の回答率が高く、ほとんどの項目について1年次保育学生よりも不安を抱く学生が多く見られる。この結果は、2021年度調査とほぼ同様であり、保育実習の経験の有無や講義・演習の経験差が影響している

ものと考えられる。

また、不安を抱く内容として、1年次学生と2年次学生が共に最も多く回答した「けがなどの応急対応」について、自由記述の内容を分析、考察を加えてみたい。

1年次学生52名、2年次学生24名が記述している項目である。1年次学生は、「正しい対応の理解」について25名、「具体的な対応」8名、「冷静な対応」6名、「迅速な対応」4名、「未経験」4名であった。つまり、「どのような対応をすればよいか分からない」という知識として身に付いていないという不安である。一方、2年次学生は、「迅速な対応」5名、「適切な対応」5名、「冷静な対応」3名となっている。このように、共通したカテゴリーもあるものの、記述の詳細を見ると、知識の有無だけではなく、実際に自分が適切に対応できるかという不安を挙げている。つまり、1年次学生と2年次学生では、不安の質が異なると言える。

両学年の学生が挙げた「(9)発達に応じた対応」、「(12)保護者への指導」の2項目についても、同様のことが言える。つまり、それぞれの項目が上位に挙げられているのは、対応するための知識がないことが不安の要因になっていると考えられる。健康・保健対応に関する不安を低減するために、1年次学生には、対応でき得る確かな知識と技能を身に付けることが重要である。また、2年次学生には、持っている知識や技能を保育現場で活用でき得るものにしていくことが大切であり、実習や健康・保健的な対応に係る科目間のカリキュラム・マネジメントを進めていく必要がある。

さらに、矢野ら(2021)は、実習前の学生が抱いているのは、漠然とした不安や保育技術の不安がほとんどであり、実習中になると、不安はより具体的な内容となると述べている。そして、実習前には、学生が実習をイメージできるような内容をできるだけ取り上げるこ

と、見学実習やボランティア活動を取り上げること、実習後には、実習中に感じた関わり方、対応、支援方法を具体的に学べる講義や演習を行うことを提案している。このことは、本研究のテーマである学生の抱く健康・保健対応に関する不安を低減させることに有効であるだけでなく、保育者としての資質向上につながるものであると考えられる。

(3) 健康・保健対応に関する不安と保育実習における経験との関連

保育実習Ⅰ・Ⅱで経験した園児の体調不良と「子どもの健康・保健対応に関する不安の内容」の関係は、2021年度、2022年度いずれも弱い正の相関が認められた。つまり、保育実習において、園児の体調不良への対応を多く経験している学生は、子どもの健康・保健対応に関する不安も多く抱いているという傾向が見られると言ってよい。

特に、保育実習Ⅰ・Ⅱの4週間の中で、10以上に及ぶ体調不良への対応を初めて経験する学生にとって、実習前に比べ大きな不安を抱くようになることは、想像に難しくない。また、2022年度の学生が経験した体調不良の内容は、「誤飲」(2名)、「やけど」(1名)、「けいれん」(2名)、「熱中症」(4名)等、決して軽微とは言えない対応も見られる。因みに2021年度には、「骨折・脱臼・捻挫」(6名)も含まれていた。こうした経験は、中には入職後に生きる経験となる可能性もないわけではないが、より大きな不安を抱く要因となり得ることも否定できない。

したがって、前述の矢野ら(2021)の提案にあるとおり、実習事後の指導を、学生個々の経験に寄り添いながら充実させていく必要があると言える。

5. 総合考察

本調査では、以下のことが明らかになった。

(1) 前報同様に、保育系短大生の多くが、

子どもの健康・保健対応に関する不安を抱いており、保育実習を経験している2年次学生の方が、1年次保育学生よりも多くの不安を抱えている。

(2) 1年次保育学生と2年次学生では、子どもの健康・保健対応に関する不安の内容について共通するところがあるが、その要因については違いが見られた。

(3) どの年度、どの学年においても、不安の内容として最も多く挙げられたのは、「けがなどの応急対応」であった。ただし、1年次学生が抱えている不安は、主として「正しい対応の理解」（知識に係る不安）であり、2年次保育学生は、「迅速な対応」「適切な対応」等、具体的な場面で対応でき得るかという不安（知識技能の発揮に係る不安）であった。

(4) 保育実習において経験した園児の体調不良と子どもの健康・保健対応に関する不安の内容には、前報同様に、弱い正の相関が見られることから、保育実習において体調不良に関わる経験を多くすることは、健康・保健対応に関する不安を大きくすることにつながると考えられる。

(5) これまでに述べた結果・考察より、以下4点の指導改善及びカリキュラム編成を提案したい。

- ①実習や健康・保健的な対応に係る科目間のカリキュラム・マネジメントを進めていくこと
- ②実習前には、学生が実習をイメージできるような内容や、見学実習やボランティア活動を取り上げるなど授業改善を図ること
- ③実習前には、子どもの健康・保健に対応でき得る確かな知識と技能を身に付ける授業を提供すること
- ④実習後は、実習での体調不良への対応経験を把握し、その対応方法を含めて、学生に寄り添いながら事後指導等を行う

こと、そして、持っている知識や技能を保育現場で活用でき得るものにしていくこと

今後は、領域「健康」をはじめとする「子どもの健康」に係る科目において、どのような指導改善やカリキュラム編成（カリキュラム・マネジメント）が保育学生の持つ子どもの健康・保健対応に関する不安の軽減・解消につながるか、学生の学びの充実や、保育者としての資質向上につながるか、検証していく必要がある。このことが、子ども自らが健康な生活を創り出していくことに結びつくものとする。

引用／参考文献

- 内閣府（2023）「保育所における感染症対策ガイドライン」
- こども家庭庁（2023）「令和4年教育・保育施設等における事故報告集計」の公表について」
- 内閣府（2016）「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」
- 沼野みえ子（2011）「子供の保健に関して保育者に求められること 新潟市内保育所・幼稚園の実態調査から」新潟人間生活学会 人間生活学研究 (2) pp23-33
- 石井まいみ・小林真（2023）「初任保育者が感じる不安・困難感についての予備的研究」とやま発達福祉学年報 14 巻 pp3-8
- 杉野寿子・田中美樹・吉川未桜・中原雄一・吉田麻美・池田孝博（2020）「保育士養成課程における保健・健康に関する学びの研究」福岡県立大学人間社会学部紀要 Vol.29No.1 pp73-80
- 川島隆・松澤俊行「保育系短大生が抱く子どもの健康及び保健対応の不安に関する研究」浜松学院大学短期大学部 研究論集 第20号 pp41-52

- 小屋美香（2010）「保育実習中の学生の乳児
保育体験に関する研究」育英短期大学研究
紀要 第 27 号 pp33-44
- 小川真由子・杉山佳菜子・榊原尉津子（2018）
「保育実習の振り返りと自己評価(1)」鈴鹿
大学・鈴鹿大学短期大学部紀要 人文科
学・社会科学編 第 1 号 pp159-170
- 矢野洋子・安東綾子（2021）「学生の保育実
習への不安に関する検討(1) -保育実習を
通してどのように変化するのか-」九州女
子大学紀要第 58 巻 pp75-85
- 田辺恭子・後藤永子（2016）「保育養成校学
生の保育実習に対する不安の解明」東邦大
学第 45 巻第 2 号

A Study on the Anxiety of Children's Health and Health Care
in the Junior College Child Care Students (2)
Toward Improving the Curriculum of Subjects Related to Children's Health,
Including the "Health" Area

Takashi KAWASHIMA, Toshiyuki MATSUZAWA

Abstract

Based on the previous report (2022), we conducted a questionnaire survey targeting junior college students. The purpose of this study is to clarify the presence and content of the anxiety about children's health and health care, and to contribute to the enhancement of support for children in kindergartens and the creation of healthy lives for children themselves. As a result, the above four points became clear. (1) Many students have the anxiety about children's health and health care, and second-year students who have experience in childcare training have more anxieties. (2) There are qualitative differences between first-year and second-year students regarding the content of their anxiety regarding health and health care. (3) In any academic year or school year, the most common cause of anxiety was "emergency response for injuries, etc." But, there are differences in the factors, (4) There is a weak positive correlation between the anxiety about health and health care and children's poor physical condition experienced during childcare training. In subjects related to "Children's Health" including "Domain Health", it is necessary to examine what kind of instructional improvement and curriculum organization will lead to reducing and eliminating anxiety, enriching students' learning, and improving their qualifications as childcare workers in the future.

Keywords: The Junior College Child Care Student, Childcare worker,
Children's, Health, Health Care, Anxiety